

デーノタメ遺跡の保存と活用のイメージ

歴史環境計画研究所代表 秋山邦雄

1 デーノタメ遺跡の魅力

—タイムカプセル・縄文時代中期の環状集落と低地遺跡—

デーノタメ遺跡はこれまで発掘調査の成果をもとにした【研究】が行われてきました。その結果、縄文時代の中期の水辺空間が明らかとなり、さらに、台地上に中期から後期にかけて連綿と大規模な環状集落が営まれていたことがわかり、大まかな集落の変遷をたどることができるようになりました。

また、縄文時代の中期から後期にかけて大きな気候変動があり、この変化に対応して縄文人の植物利用や集落周辺の植生が変化し、水場の構造や利用形態が変わっていったことがわかる情報が、水辺空間の泥炭層に秘められていることが明確になりました。

デーノタメ遺跡は、まさに中～後期縄文時代の人間の生活や文化のタイムカプセルが埋蔵されている全国的にもまれな貴重な遺跡であることがわかりました。

2 遺跡の保存活用の必要性

—活用をイメージしながら、まず保存が必要—

縄文時代で残っている遺構（不動産的なもの）はほとんどが土を掘った柱の穴や住居の竪穴などです。また、柱穴には木の柱が使われていたことがわかりますが、遺材として残っているものはほんのまれです。遺物（動産的なもの）は石器や土器などが出土することが多いので博物館などで見ることができますが、発掘で見つかった遺構をそのまま露出しておくともすぐ壊れてしまいますので、調査後は遺構保護のために土をかぶせて保護するしか保存方法がありません。遺跡がどのようなものであるかを見ることができるのは、

発掘調査の見学会の時のみに限られてしまいます。そのために、遺構を保護し遺跡の本質的価値をどのように保存し、その存在を周知するとともにいかに活用し次世代へと継承していくか、その基本的な方針や具体的な方法を検討していかなければなりません。そのために遺跡の保存活用を計画する必要があります。

保存活用を計画するためには、【研究】、【保存】、【活用】という 3 つの内容を主に検討していく必要があります。遺跡によってこの内容は違いますが、保存活用計画の内容も遺跡ごとに特色があります。

3 地元の文化資源として保存活用を —保存活用は地元市民の手で—

そこで、次に大事なことは、まず地元が遺跡の存在を知り、その価値を良く理解し、遺跡を【保存】し現代生活に【活用】しながら大事に守っていくことです。地域にとってその遺跡が重要なアイデンティティとなるからです。地元の文化資源であり文化力を示すことになります。

このような基本的な考えをもとに、遺跡の保存と活用を事例でご紹介し保存活用のイメージをお伝えいたします。